

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の2年目)

1. 研究課題

近代京都と文化

Modern Kyoto and Culture

2. 研究代表者氏名

高木博志

Takagi Hiroshi

3. 研究期間

2019年4月-2022年3月(2年目)

4. 研究目的

本研究では、近代の京都と文化を対象としつつ相対化する。今日、京都は、年間5500万人以上が訪れる世界でもっとも人気のある観光都市である。「日本文化を創り出してきた京都」、「おもてなしの文化」、雅な貴族文化などとバラ色に表象され、文化庁移転のうたい文句にもなる。こうした京都イメージは、近現代を通じて、政治的、社会的に創り出された側面が強い。それに対して近代京都の文化について、民衆の生活・花街の性・差別の問題といった周縁性や、文化をめぐる政治や地域社会とのかかわりなどを含み込んだものとして捉えなおしてゆきたい。そのために、政治・教育・社会運動・経済・社会・宗教・思想や美術・映画・文学・建築・造園など多様な歴史学の分野を専攻する研究者が、自分の専門領域から一歩踏み出して、近代京都の「文化」を広くとらえ直して考えてゆきたい。今まで行った、「近代京都研究」(2003~2005)「近代古都研究」(2006~10年)「近代天皇制と社会」(2011~16年)の共同研究を踏まえ、地域をめぐる学際的で批判的な共同研究会を展開したい。

5. 本年度の研究実施状況

本研究班は、対面による研究会実施を原則としているため、本年前半は、新型コロナウイルスの感染拡大及び緊急事態宣言の発令により、当初予定していた研究会が実施できなかった。本年最初の研究会は、9月12日に開催した宇治川巡見である。感染対策を十分に講じた上で、宇治川周辺の茶園や天ヶ瀬ダムを見学し電力開発や生業の歴史を資史料から検討した。10月31日には、京都文化博物館の「舞子モダン」展との共催企画として、同博物館学芸員・植田彩芳子氏による展示解説と研究報告を行い、班員全体で深い議論を行った。11月7日には、「大正期京都のロマン主義」に関するシンポジウムを開催した。本来は一般

公開する予定であったが、感染症対策のため、班員内部にのみ公開するクローズドな会となったが、地理学・歴史学・美術史・文学・映画研究と学際的に大正期の文化とロマン主義概念を鍛え直す内容となった。研究会参加者は両日ともに20人前後に及び、活発な議論が繰り広げられた。2021年3月27日には、久保田米僊・吉川観方という単に美術の領域にとどまらず、ジャーナリズム・映画など広く文化や社会にはみ出す、本研究班の趣旨に沿う報告を得た。

6. 本年度の研究実施内容

2020-09-12 宇治川巡見

2020-10-31 「舞妓モダン」展をめぐる研究会・観覧 展覧会「舞妓モダン」展のガイダンス 発表者 植田彩芳子 京都文化博物館 舞妓「モダン」展の観覧 「舞妓モダン」をめぐる鼎談 発表者 植田彩芳子・加藤政洋・高木博志 京都文化博物館・立命館大学・京都大学人文科学研究所

2020-11-07 「大正期京都のロマン主義—吉井勇・花街・国展・映画」シンポジウム 大正期京都のロマン主義 発表者 高木博志 人文科学研究所 『五足の靴』『夢の女』の発見—異国憧憬のまなざしと〈祇園〉 発表者 細川光洋 静岡県立大学 大正期京都の都市空間—〈光と影〉三景— 発表者 加藤政洋 立命館大学 国画創作協会結成の位置と意義 発表者 中野慎之 文化庁 マキノ映画における京都の花街・舞妓表象 一万博から「祇園小唄 繪日傘 第一話 舞ひの袖」(1930)へ— 発表者 富田美香 国立映画アーカイブ

2021-03-27 「久保田米僊と明治期京都画壇」 発表者 森光彦 京都市学校歴史博物館 「吉川観方と京都文化」 発表者 松川綾子 奈良県立美術館

7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

8. 研究班員

所内

高木博志、岩城卓二、高階絵里加、福家崇洋、永田知之、池田さなえ

学内

谷川穰(文学研究科)、藤原学(人間・環境学研究科)、田中智子(教育学研究科)、木下千花(人間環境学研究科)、

学外

長志珠絵(神戸大学大学院国際文化学研究科)、國賀由美子(大谷大学文学部歴史学科)、北野裕子(龍谷大学)、丸山 宏(名城大学農学部)、玉城玲子(向日市文化資料館)、日向伸介(大阪大学言語文化研究科)、高久嶺之介(同志社大学)、山本真紗子(立命館大学)、平山 昇(神奈川大学 国際日本学部国際文化交流学科)、加藤政洋(立命館大学文学部)、市川秀之(滋賀

県立大学人間文化学部)、清水重敦(京都工芸繊維大学)、並木誠士(京都工芸繊維大学)、植田彩芳子(京都文化博物館)、大矢敦子(京都文化博物館)、中野慎之(文化庁 文化財第一課)、原田敬一(佛教大学歴史学部)、本康宏史(金沢星稜大学 経済学部)、中川理(京都工芸繊維大学)、ジョン・ブリー(国際日本文化研究センター)、細川光洋(静岡県立大学国際関係学部)、イリナ・ホルカ(東京大学大学院総合文化研究科)、鈴木則子(奈良女子大学)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
学内(法人内)		4	0	1	1	0	16		2	2	
		(1)	(0)	(1)	(1)	(0)	(7)		(2)	(2)	
国立大学		5	1	4	1	0	10	1	4	1	
		(1)	(1)	(2)	(1)	(0)	(4)	(1)	(2)	(1)	
公立大学		2	0	1	0	0	2		1		
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)				
私立大学		8	0	1	1	0	16		1	1	
		(3)	(0)	(1)	(1)	(0)	(9)		(1)	(1)	
大学共同利用機関法人		1	1	0	0	0	4	1	0		
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
独立行政法人等公的研究機関		4	0	2	1	0	4		2	1	
		(3)	(0)	(1)	(0)	(0)	(3)		(1)	(0)	
民間機関		0	0	0	0	0	3		3	3	
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3)		(3)	(3)	
外国機関		0	0	0	0	0					
			(0)	(0)	(0)	(0)					
その他		0	0	0	0	0	0				
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)				
計	0	24	2	9	4	0	55	2	13	8	0
		(8)	(1)	(5)	(3)	(0)	(26)	(1)	(9)	(7)	(0)

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	3		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0		0	
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	32		11	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0		0	
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

雑誌名	掲載 論文数	掲載 年月日	論文名	発表者名
史学雑誌	1	R2. 5	一二 天皇・宮中(近現代, 日本, 二〇一九年の歴史学界-回顧と展望-)	池田 さなえ
歴史地理教育	1	R2. 8	都市とモダニズムー金沢を中心に	本康 宏史
北国文華	1	R2. 9	金沢港建設論に火をつけた北國新聞	本康 宏史
岩城卓二、石井美保、田中祐理子、藤原辰史編著『環世界の人文学』人文書院	1	R3. 3	震災後文学の動物と書き直しー中森明夫、川上弘美、古川日出男のテクストを中心にー	ホルカ イリナ
Irina Holca, Carmen Sapunaru Tamas, Forms of the Body in Contemporary Japanese Society, Literature, and Culture	1	R2. 5	Home Is Where Mother Is, and the Way to a Man's Heart Goes through His Stomach: Bodies in the Kitchen (Yoshimoto Banana)	ホルカ イリナ
曹雪芹研究	1	R2. 9	林語堂『紅樓夢』英訳稿的日文転訳本研究	宋丹
中国翻訳	1	R2. 11	井波律子中国古典文学翻訳的守成与创新	宋丹
日本衣服学会誌	1	R2. 10	京都・染織祭と女性時代風俗衣裳ー服飾史の可視化に挑んだ人々ー	北野 裕子
山中弘編『現代宗教とスピリチュアル・マーケット』弘文堂	1	R2. 8	近代日本の鉄道と社寺参詣	平山 昇

教育史フォーラム	1	R2. 6	書評 新編『同志社の思想家たち』	田中 智子
同志社大学人文科学研究『社会科学』	1	R2. 8	時局匡救事業と道路—昭和戦前期京都府の道はどのように変わってくるか—	高久 嶺之介
デザイン理論	1	R2. 7	和歌浦図研究一名所 風俗図・試論	並木 誠士
Hiroshi Maruyama, John Breen and Hiroshi Takagi (eds.), Kyoto's Renaissance: Ancient Capital for Modern Japan, Renaissance Books, Kent, United Kingdom, 2020年7月	1	R2. 7	Buddhism and society in modern Kyoto	Yutaka Tanigawa
日本教育史研究	1	R2. 8	高橋陽一『共通教化と教育勅語』を読んで	谷川 穰
『鈴木大拙：禅を超えて』（山田将・John Breen 編）	1	R2. 10	序説	John Breen
『鈴木大拙：禅を超えて』（山田将・John Breen 編）	1	R2. 10	鈴木大拙と神道：批判の構造	John Breen
日文研	1	R2. 9	新型コロナウイルスの日々：日本とイギリスの間	John Breen
Journal of Religion in Japan	1	R2. 9	Sannō Matsuri: Fabricating Festivals in Modern Japan	John Breen

『近代日本宗教史 第1巻 維新の衝撃 ——幕末～明治前 期』（島藺進・末木文 美士・大谷栄一・西 村明編）	1	R2. 9	天皇、神話、宗教： 明治初期の宗教政策	John Breen
『「明治」という遺 産：近代日本をめぐ る比較文明史』（瀧井 一博編）	1	R2. 7	勲章外交：明治天皇 と世界の君主たち	John Breen
Hiroshi Maruyama, John Breen and Hiroshi Takagi (eds.), Kyoto's Renaissance: Ancient Capital for Modern Japan, Renaissance Books, Kent, United Kingdom, 2020年7月	1	R2. 7	Preface.	John Breen
Hiroshi Maruyama, John Breen and Hiroshi Takagi (eds.), Kyoto's Renaissance: Ancient Capital for Modern Japan, Renaissance Books, Kent, United Kingdom, 2020年8月	1	R2. 7	Introduction: In Search of the Kyoto Modern	John Breen, Maruyama Hiroshi and Takagi Hiroshi
Hiroshi Maruyama, John Breen and Hiroshi Takagi (eds.), Kyoto's Renaissance: Ancient Capital for Modern Japan, Renaissance Books, Kent, United Kingdom, 2020年9月	1	R2. 7	Performing History: Festivals and Pageants in the Making of Modern Kyoto	John Breen

Japan Focus	1	R2. 6	The Quality of Emperorhip in 21st Century Japan: Reflections on the Reiwa Accession.	John Breen
ブリタニカ国際年間	1	R2. 7	令和の始まりに見る天皇制の現在	John Breen
The Meiji Restoration: Japan as a Global Nation (Robert Hellyer and Harald Fuess ed.)	1	R2. 4	Ornamental Diplomacy: Emperor Meiji and the Monarchs of the Modern World.	John Breen
谷川建司編『映画産業史の転換—経営・継承・メディア戦略』森話社	1	R2. 7	近現代史のなかの映画『祇園祭』—もう一つの明治百年	高木博志
Hiroshi Maruyama, John Breen and Hiroshi Takagi (eds.), Kyoto's Renaissance: Ancient Capital for Modern Japan, Renaissance Books, Kent, United Kingdom, 2020年8月、	1	R2. 4	The Restoration of the Ancient Capitals of Nara and Kyoto and International Cultural Legitimacy in Meiji Japan	Hiroshi TAKAGI
國華	1	R2. 9	岡本神草筆 口紅	植田彩芳子
鹿島美術研究 年報 (別冊)	1	R2. 11	太田喜二郎の研究—雑誌『徳雲』をめぐる京阪神文化人ネットワーク—	植田彩芳子
『日本美術のつくり方 佐藤康宏先生の退職によせて』羽鳥書店	1	R2. 11	描かれた舞妓—竹内栖鳳筆《アレタ立に》の史的位	植田彩芳子
日本建築学会計画系論文集	1	R2. 12	1930年代の台湾における武徳殿の建設	中川理・西川博美

短歌	1	R2. 5	北原白秋、吉井勇一 歌つくりと歌よみと	細川光洋
国際関係・比較文化 研究	1	R2. 9	吉井勇の戦中日記一 —「洛東日録」抄	細川光洋
『寺田寅彦『物理学 序説』を読む』窮理 舎刊	1	R2. 12	物理学序説 注釈	細川光洋

共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

研究書の名称	編著者名	発行 年月	出版社名
MADE IN JAPAN 京都の匠： 世界を変える日本の伝統 工芸	前崎信也・山本真紗子 編	R2. 6	I B Cパブリッ シング
記憶の灯り 希望の宙へ いしかわの戦争と平和	本康 宏史監修、石川県 平和委員会	R2. 8	戦争をさせない 石川の会
Forms of the Body in Contemporary Japanese Society, Literature, and Culture	Irina Holca, <u>Carmen</u> <u>Sapunaru Tamas</u>	R2. 5	Rowman& Littlefield
近代図案帖 寺田哲朗コ レクションに見る機械捺 染の世界	並木誠士・ <u>上田文</u> ・青木 <u>美保子</u>	R2. 4	青幻舎
鈴木大拙：禅を超えて	<u>山田将</u> ・John Breen	R2. 10	思文閣出版
空想から計画へ	<u>中嶋節子</u> ・砂本文彦・中 <u>野茂夫</u> ・ <u>大田省一</u> ・中 川理編	R3. 3	思文閣出版

11. 費目の30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

12. 次年度の研究実施計画

次年度が最終年度となる。「近代京都と文化」というテーマで歴史学・造園学・美術史・建築史・民俗学などの学際的な共同研究を3年間、続けてきたが、研究報告書の刊行に向けて準備してゆきたい。毎月2名の報告者をたて、9月には丹後への巡見も実施予定である。次年度の報告者はのべ18人、巡見1度の開催予定である。

今年度はコロナ禍で対面の研究会ができず開催回数が減ったが、次年度は情勢次第ではZOOMによる実施も検討し、予定通りの研究会開催に努力したい。共同研究のまとめを大きく二つの方向性で考えており、日本の「ロマン主義」の概念を明治後期の文化のみならず、近現代を通じた思想・政治・歴史顕彰・メディアなどの総体として鍛え直すことと、もう一つは「近代京都と文化」についても同様の切り口で再考することである。

13. 次年度の経費

		開催回数	国内出張旅費（延べ人）	支出予定額
国内旅費	研究会参加費	10	20	400000
	一般旅費			
海外旅費	渡航旅費			
	招へい旅費			
謝金（講演謝金、研究協力者金、その他の謝金）				
消耗品等経費				
その他				
合計				400000

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

次年度中に、「近代京都と文化」にかかわる原稿を依頼し、2022年度に思文閣出版から共同研究報告書を刊行したい。今年度には「大正期京都のロマン主義」にかかわり、映画・美術・花街論・文学など大正期の思潮を再考する6本の報告をしたが、この核となるテーマの論文化とは別に、共同研究班のテーマ「近代京都と文化」に関わる論文を集約し、論文集の刊行に向けて努力したい。思文閣出版からの刊行物以外にも『人文学報』の特集号も考えている。「近代京都研究」「近代古都研究」「近代天皇制と社会」「近代京都と文化」と共同研究班の系譜においては、地域をめぐる学際的で批判的な共同研究会を展開してきた。そのネットワークや学術資源の蓄積をもとに、新たな課題を見いだしてゆきたい。